授業科目名	知覚心理学	大学名	作新学院大学
科目区分	ＶＵ連携講座	開講時期	後期（9 月 21 日～1 月 31 日）
学部・学科等	人間文化学部・人間文化学科	曜日	金曜日
必修・選択区分	選択	時限（時間）	2 時限目　10：40～12：10
標準対象年次	全学年	授業形態	講義
単位数	２単位	授業会場	学内講義室
担当教員名	松田　真幸		
電話番号（代表者名）	０２８－６６７－７１１１	e-mail アドレス	matsudam@sakushin-u.ac.jp
オフィスアワー	未定		

授業の概要

＜授業の目標及びねらい＞

環境に対して適応的に行動していくためには、環境や自己の状況を知らなければならない。このような働きやその過程を知覚という。知覚心理学は、心理学の基礎領域のひとつであり、人間の知覚がどのような特性をもっており、その特性はどのようなメカニズムによるのかを明らかにしようとする。このような知覚研究や人間の知覚に関する基礎知識を修得することにより、人間の知覚について理解し、それにかかわる自分の考えを説明できるようになることが本授業の到達目標である。

＜前提とする知識・経験＞

特に必要としない。

＜授業の内容と具体的な進め方＞

はじめに、知覚の生理学的基礎、研究方法および一般特性について解説する。続いて、視覚（視知覚）を中心に、おもに知覚内容という点から区別して、何が問題とされ、どのようなことが明らかにされてきたのかを解説していく。

＜授業計画＞

第１週　はじめに：感覚とは、知覚とは、認知とは
第２週　知覚の生理学的基礎：視覚系および聴覚系の構造と機能
第３週　知覚研究の方法１：心理物理学的測定法
第４週　知覚研究の方法２：精神物理学的測定法による研究の成果
第５週　知覚の一般特性：知覚の対象性、知覚のズレ、知覚の基準
第６週　明るさの知覚１：比視感度曲線、加重、同化と対比
第７週　明るさの知覚２：視覚系の空間的特性、視覚系の時間的特性
第８週　色の知覚：表色系、混色、色覚説
第９週　形の知覚：図と地の分化、図の群化、主観的輪郭、透明視、静止網膜像
第10週　空間の知覚：奥行き知覚の手がかり、視空間の異方性
第11週　運動の知覚１：実際運動、速さと運動軌跡の知覚
第12週　運動の知覚２：仮現運動、誘導運動、自動運動、運動残効
第13週　音と音声の知覚：音の物理的属性と心理的属性、マスキング、母音と子音の知覚
第14週　知覚の障害：視覚障害、ロービジョンの読書困難と改善法
第15週　デモンストレーション：パソコンを使って視知覚現象を体験する。
定期試験

＜教科書・参考書・教材と入手方法＞

講義内容に関する資料（図版を多く含むもの）を授業時に配布するため、教科書は使用しない。広範で詳細な情報を提供する参考書として、大山正ほか(編)『新編　感覚・知覚心理学ハンドブック』（誠信書房、1994 年）と大山正ほか(編)『新編　感覚・知覚心理学ハンドブック　Part 2』（誠信書房、2007 年）を挙げておく。本学図書館で閲覧可能。

＜成績評価法＞

各回の授業前にはそれに関連する問題を予め提示し、授業終了時に授業内容に関する課題を提示する。成績評価は、これらの課題の提出状況と内容および定期試験の結果によって総合的に行う。なお、2/3（10 回）以上の出席がない場合は評価対象外とする。

＜教員からのメッセージ＞

日常的にも授業内容を意識しながら外界を見ることにより知覚現象を確認するとよい。